

【令和元年11月】

地域を支える仕組みづくり

高倉地域のコーディネーターが各地区のお茶っこ会で「生活の困り事」把握に取り掛かっております

令和元年11月8日（木曜日）午前10時30分から矢目集会所にて地区の方々、保健推進員、民生委員、生活支援コーディネーターと共に「お茶っこ会」と一緒に、「生活の困り事」把握カードを体験しました。

今回の台風19号の被害に遭われた方もいましたがこの会を楽しみにし、12名程の方が参加しました。この地区では、「矢目地区田植え踊り」の伝承・発表会を行ったり等、地区民が大変活躍している地域でもあります。

今月からは高倉地域のコーディネーターの方々が進行を務めていきます。普段は公民館事業にも携わり、地域の方々とも深く関わってきている方です。公民館事業に参加されている方に呼びかける等、コーディネーターが地道に足を運び「お茶っこ会」のチラシを全戸配布し参加を募るなど、職員一同が協働でこの場をつくりあげています。

11月28日（木曜日）は新田地区で行いました。他の地区でもこの「生活の困り事」に関心を高く持ち、自分の地区の事にも興味を持っているようです。今後、サーポートズを立ち上げるにあたり、困り事に合わせ「ニーズと担い手」がマッチするための参考にもなるため、積極的に取り組んでおります。

古川敷玉地区で地域防災の意識を高め「助け合いの大切さ」をカードゲームで体験しました

令和元年11月10日（日曜日）午前9時から地区民、消防団敷玉分団、敷玉婦人防火クラブが敷玉地区公民館にて「生活の困り事」把握カードゲームを体験しました。

敷玉地域は、今回の台風19号の被害は大きな被害にはつながらなかったものの、4年前の被害を経験し、災害から守り安心・安全な地域づくりを目標に地域防災の意識を高めるためにもこのカードゲームを体験しました。

参加者の多くは男性でしたが、男性ならではの困り事や解決策の案など、たくさんの意見をいただき、最後の講評は消防団の分団長より「日頃からのコミュニケーションや助け合いの大切さを改めて考えることができた」とありました。



松山地域保健推進員の新たな企画取組みと地域課題把握に「生活の困り事」把握カードゲームで体験しました

令和元年11月15日（金曜日）午前10時00分から松山長尾地区集会所で、保健推進員事業の「健康教室」にて、地区民、保健推進員、市民福祉課の保健師、栄養士、食生活改善推進員、まちづくり協議会と共に「生活の困り事」把握カードゲームを体験しました。

4月の保健推進員の総会でカードゲームを体験した後、「地域の課題把握や毎年恒例になりつつある事業の見直しに出来ないか？」との思いから、保健推進員の活動で初めて行われました。

長尾地区では2ヶ月に1回のペースで「あつまりの場」が開かれ、保健推進員主催の「集まり」は年2回。そのうち毎年同じ時期に行われる今回の「健康教室」は参加者が一番多く、何よりも一番の楽しみは栄養士が考えた「骨太メニュー」の献立を食生活改善推進員らが調理し、食事会が開かれるのを心待ちにしているようです。

食事前には「ロコモ体操」をし、保健師から講話、その後にカードゲームを体験しました。普段の生活ではなかなか気づけなかった「今まであまり気にも留めていなかった困り事が見えた」などの意見もありました。



岩出山上野目地域において福祉分野を委ねられている「福祉会」が新たな取組みを始めました

令和元年11月22日（金曜日）午前10時から上野目天王寺集会所にて地区民、上野目福祉会、社会福祉課職員と共に「生活の困り事」把握カードを行いました。

上野目福祉会では今年2月に上野目自治協議会、福祉会の間での話題提供に「みんなで創る・支え合う」ために勉強会を行い、その後7月に行われた『地域包括ケアシステム市民フォーラム』に

参加し、今後「上野目流の地域包括ケアシステムを目指して」の必要性を感じ、各地区の「お茶っこ会」が開かれるのと一緒に「生活の困り事」把握カードゲームを行い課題把握から始めました。

天王寺地区では85歳以上の方が8名いる中、今回は3名の方々が出席しました。最高齢者は98歳の女性の方でした。毎回行われる「お茶っこ会（レモン会）」にも参加し、仲間と楽しむゲートボールにも積極的に参加しているようです。

困り事では「通院・買い物などの送迎」と「除雪」が一番多く岩出山の中心部から離れた地区ならではの困り事になっているようです。2回目は26日（火曜日）上野目山谷地区。今後は、必要に合わせて様々な関係者の協力があればとも考えはじめました。



令和元年度第4回地域支援コーディネーター意見交換会を行いました

令和元年11月28日（木曜日）午後1時30分から隔月で行われている「地域支援コーディネーター意見交換会」を大崎市役所本庁舎北会議室1階にて行いました。

今回の意見交換会では、地域でワークショップや話し合いを行う際に活用できるアイスブレイクの手法を学んだ後に、令和元年度上半期の取り組み状況について項目別（ニーズ把握・見守り・交流・無償ボランティア・有償ボランティア等）に報告しました。

意見交換では、地域の課題把握を行って見えてきた「地域の困りごと」についての話が出されました。地域特有の困りごとや、共通する困りごとなどが出される中、池月サポートセンターで付き添い支援（外出支援）について取り組みを進めていくことの情報提供がありました。

それぞれのコーディネーターが地域の困りごとを捉えて、課題解決に向けた話し合いが行われてきております。



医療と介護の連携

令和元年度第7回ふらっといしかいサロンをオープンしました

令和元年11月7日（木曜日）午前10時00分から大崎市図書館1階フロアスペースにて、第7回目の「ふらっといしかいサロン」をオープンし32人が来所しました。

このサロンは大崎市医師会主催で行っており、地域の方々が病気や健康管理のことについて「ちょっと聞いてみたいこと」を医師や看護師等に気軽に相談できる場になっています。お立ち寄りいただいた方の中には継続的にサロンを楽しみにしている方もおり、サロンが徐々に周知されてきた様子がうかがえます。今回は健康推進課保健師が加わり、相談に来た方の話の内容から栄養士に話をつなげ「栄養指導」になり新たな展開にもつながりました。

次回、12月5日（木）午前10時から、大崎市図書館にて開かれます。

大崎市医師会主催の第7回医学講座が開催されました

令和元年11月19日（火曜日）午後6時30分から大崎市図書館2階研修室にて、大崎市医師会主催による「今だから学びたい介護事業者向け医学講座」が開催され、市内の介護事業所に勤めるケアマネジャー等が47名参加しました。

今回は古川民主病院 佐藤 医師を講師となり、「感染症」についての講座を学びました。参加者からは、「この時期の感染症の話は、施設でも話ができるので良い」や「間違った対策を改められた。」や「周りの人の事もだが、自分の身を守るためにも大事な事であると思った。」などの意見を頂きました。

大崎医師会では介護に従事する職員が、医学的な知識と健康管理のポイントを学ぶことで高齢者等が安心な療養生活を行うことができるよう、今年度も毎月第3火曜日、午後6時30分から大崎市図書館にて医学講座を開催していきます。

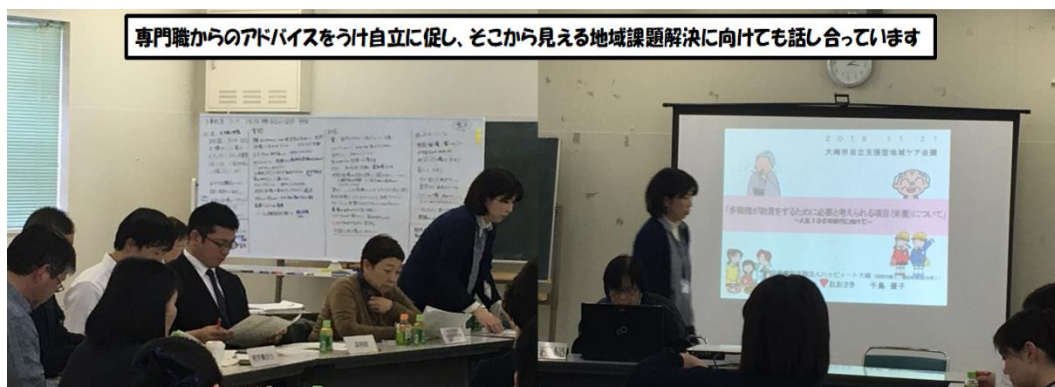
次回、12月17日（火曜日）に「状態の観察と緊急時の対応」についての講話が開催されます。

令和元年度第7回自立支援型地域ケア会議が行われました

令和元年度11月21日（木曜日）大崎市役所北会議室2階で高齢者のQOL（人生の内容の質や社会的にみた生活の質）の向上、要支援者の生活行為の課題の解決等、状態の改善に導き、自立を促すための自立支援型地域ケア会議が行われました。

今回は3名の方の事例相談で、「自立を強く望んでいる」方達でした。本人達の「興味・関心」を持っている内容に焦点をあて、食生活や生活習慣に沿いながらの専門職からのアドバイスをいただきました。

今ままで「地域の人とのつながりを持ちながら日常生活を楽しみにしていた場所」、「人との関りが生活の意欲につながっていた」など「いつまでも住み続けたい」思いが伝わってきました。その思いが実現できるように、私たちコーディネーターが参加することで、「個人」と「地域」としてどのような地域資源が合うのかも把握でき、地域課題の解決策を検討していきやすくなります。



令和元年度第2回地域包括ケア推進懇談会が行われました

令和元年11月29日（金曜日）午後6時30分から、大崎市図書館にて「令和元年度第2回大崎市地域包括ケア推進懇談会」が行われました。

今回は、「在宅医療・介護連携推進事業の取り組み状況」として大崎市民生部社会福祉課地域包括ケア推進室、大崎市在宅医療・介護連携支援センター、大崎市民病院緩和ケア室から、これまでの取り組み経過についての報告がありました。

その後、東京大学高齢社会総合研究機構 学術支援専門職員 松本佳子 氏から「在宅医療・介護連携推進事業の評価ポイントと目標の立て方」について講話をいただきました。

意見交換では、ケアマネジャー協会大崎支部から「連携が格段と良くなってきておりチームケアができやすくなってきている。」地域包括支援センターから「今日の講演を聞き、これまでの評価をしたときに、連携ができていたために退院調整の際に病院と介護支援専門員の間に入るものが減少してきた。」等の感想をいただき、市内の医療・介護の連携が着実に進んでいることを実感することができる懇談会となりました。

